

サステナビリティマネジメント

- 33 プリマハムグループのサステナビリティ
- 34 重要課題(マテリアリティ)への取り組み
- 35 気候変動への対応(TCFD提言への取り組み)
- 37 人的資本の強化に向けて

プリマハムグループのサステナビリティ

基本的な考え方

プリマハムグループは、持続的な成長を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するという考えのもと事業活動に取り組んでいます。当社グループが持続的な成長を遂げるためには、中長期的な視点でリスク・機会を把握することが重要であると考え、2020年9月にプリマハムグループの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

さらに、2021年10月には「サステナビリティ基本方針」を定めるとともに、中長期的な企業価値の向上を図るために、2021年11月に「サステナビリティ委員会」を設置しました。

 サステナビリティ基本方針
<https://www.primaham.co.jp/sustainability/policy.html>

推進体制

サステナビリティ委員会は、取締役会の任意の諮問委員会として設置され、取締役会からの諮問を受けて重要課題(マテリアリティ)の解決に向けた目標の設定、活動計画の策定、その進捗状況の確認とともに、必要に応じて重要課題(マテリアリティ)を適宜見直します。また、本委員会の主要な諮問事項は定期的に取締役会に答申します。

なお、本委員会は代表取締役社長を委員長とし、メンバーは役員、主管者によって構成され、同委員会の管下には6つの分科会が設置されています。

重要課題(マテリアリティ)

企業の持続的な成長を図るためには、ESGの観点から当社グループの成長に影響の大きいリスクと機会を分析し、長期的な視点で経営課題に即した戦略を打ち出すことが求められます。そうした認識のもと、経営戦略とともに優先的に取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を特定。また、特定した重要課題に対して、サステナビリティ委員会および取締役会において目標・KPI、達成に向けたアクションプランを策定しました。その進捗状況については、サステナビリティ委員会において確認し、PDCAサイクルを回しながら取り組みを進めていきます。

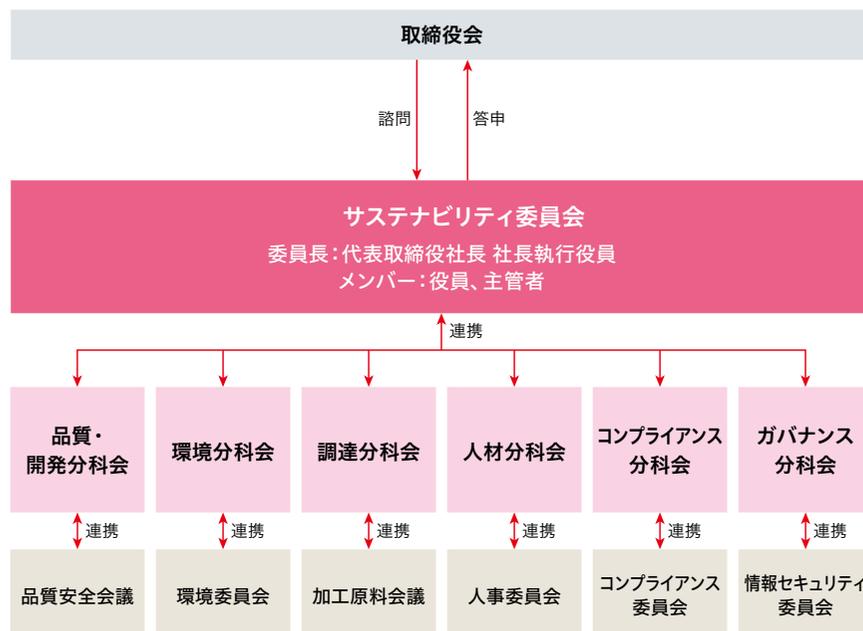
 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス
<https://www.primaham.co.jp/sustainability/process.html>

サステナビリティ推進のあゆみ

- 2020年 9月 重要課題(マテリアリティ)の特定
- 2021年10月 サステナビリティ基本方針の制定
- 2021年11月 サステナビリティ委員会の設置

〈委員会のおもな議題〉

- 2021年11月 委員会と分科会の役割、活動計画
- 2022年 6月 重要課題に関する目標・KPI設定
- 2022年 8月 重要課題に関する目標・KPI設定
- 2022年11月 TCFD提言に基づく開示内容の決定
- 2023年 3月 アクションプラン設定
- 2023年 6月 2022年度実績の確認



- 目標設定
- 活動計画策定
- 進捗状況確認
- 重要課題の見直し
- 取締役会への答申

カテゴリー	重要課題
健康で豊かな食生活を創造する	食の安全・安心の確保 健康に配慮した商品の提案
地球環境の保全に貢献する	温室効果ガス排出量の抑制 廃棄物排出量の削減
サプライチェーン・マネジメントを強化する	持続可能な原材料調達の実現 アニマルウェルフェアへの対応
働きがいのある職場環境をつくる	多様な働き方の尊重、推進 優秀な人材の雇用と育成 心身の健康に配慮した労働安全衛生
経営基盤を強化する	コーポレート・ガバナンスの強化

重要課題(マテリアリティ)への取り組み

カテゴリ	重要課題	目標・KPI
健康で豊かな食生活を創造する 	食の安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年度までに主要な生産工場および農場における食品安全マネジメントシステム導入率100%
	健康に配慮した商品の提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康配慮型商品のラインアップ拡充
地球環境の保全に貢献する 	温室効果ガス排出量の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年度までに温室効果ガス排出量24.3%削減(2021年度比) ※海外拠点・豚生体由来は除く
	廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年度までに廃棄物排出量(廃プラスチック・食品廃棄物)5%削減(2021年度比) ※製造数量あたりの原単位 ● リサイクル率(食品廃棄物)98%以上 ※排出量ベース
サプライチェーン・マネジメントを強化する 	持続可能な原材料調達の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 安定的な原材料調達に向けた調達方針の決定 ● 重要一次食肉サプライヤーの自主監査実施率100%
	アニマルウェルフェアへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際基準(OIEコード)に沿った自社養豚事業の飼養管理実施 ● アニマルウェルフェアに配慮した原材料調達
働きがいのある職場環境をつくる 	多様な働き方の尊重、推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年度までに年次有給休暇取得率90%、年間実総労働時間の削減 ※対象はプリマハム(株)の全従業員 ● 2030年度までに男性育休取得率100%、女性採用比率40%以上 ※男性育休取得率は5日以上で取得としてカウント ※対象はプリマハム(株)の社員 ● 2030年度までに人権に関する従業員教育実施率100%、人権デューデリジェンスの実施(年1回) ※対象は全グループ会社 ● 2030年度までに障がい者雇用率2.7%の達成 ※対象はプリマハム(株)(特例子会社を含む)
	優秀な人材の雇用と育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 2030年度までに管理職に占める女性比率10% ※対象はプリマハム(株)の社員
	心身の健康に配慮した労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員および家族が心と体も健康で、充実した生活をおくれるよう、健康維持・健康増進の活動を推進
経営基盤を強化する 	コーポレート・ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引の遂行 ● 従業員一人ひとりのコンプライアンス意識のさらなる醸成に向けた取り組みを推進 ● ステークホルダーへの適切な情報開示とESG評価機関の評価向上 ● 2022年度中にTCFD提言に沿った情報開示

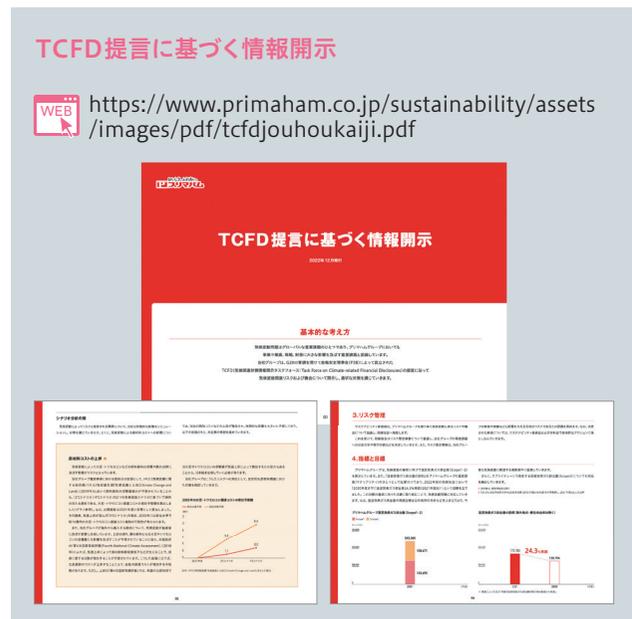
2022年度のおもな進捗実績
<ul style="list-style-type: none"> ● 食品安全マネジメントシステム導入率85%
<ul style="list-style-type: none"> ● 温室効果ガス排出量0.54%削減(171,838t-CO₂e)
<ul style="list-style-type: none"> ● 廃プラスチック4.4%削減(29.6kg/t) ● 食品廃棄物3.1%削減(55.8kg/t) ● リサイクル率(食品廃棄物)92.5%
<ul style="list-style-type: none"> ● 調達方針を策定(2023年9月)
<ul style="list-style-type: none"> ● 年次有給休暇取得率61% ● 男性育休取得率5% ● 女性採用比率32%(2023年度入社実績) ● 障がい者雇用率2.3% ● 管理職に占める女性比率3.4%
<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年12月に「TCFD提言に基づく情報開示」を当社Webサイト上で開示

気候変動への対応 (TCFD 提言への取り組み)

TCFDへの賛同

気候変動問題はグローバルな重要課題のひとつであり、プリマハムグループにおいても事業や戦略に大きな影響をおよぼす重要課題と認識しています。

そこで当社グループは、G20の要請を受けて金融安定理事会(FSB)によって設立されたTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース: Task Force on Climate-related Financial Disclosures)の提言に2022年9月に賛同し、2022年度からTCFD提言が示す4つの観点(ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標)に沿った情報開示に取り組んでいます。



ガバナンス

プリマハム(株)は、取締役会の諮問機関としてサステナビリティ委員会 ▶P.33 を設置しています。本委員会は、気候変動問題への対応などの重要課題(マテリアリティ)の解決に向けた目標設定、活動計画の策定、その進捗状況を確認し、必要に応じて重要課題(マテリアリティ)を適宜見直します。2022年度は4回の委員会を開催し、議論を進めました。

気候変動への対応においては、グループ全体の温室効果ガス排出量の削減が重要です。このことから、サステナビリティ委員会および環境分科会において、太陽光パネルや高効率エネルギー設備の導入、フロン冷媒から自然冷媒への転換、フロン対策工事など生産拠点への設備投資計画を中心とした議論がなされています。

戦略

プリマハムグループの中期経営計画 ▶P.14 では、基本方針のひとつに「重要課題(マテリアリティ)の解消に向けた取り組み」を掲げており、サステナビリティ委員会の活動を通じて気候変動問題の解消に向けた対応に取り組んでいます。現時点で、当社グループへの影響が想定されるリスク・機会を開示 ▶P.36 しており、今後気候変動によってリスクと想定される事柄について、財務的な影響をシミュレーションし、対策を講じていきます。

2022年度は「気候変動による原材料コストへの影響」についてのシナリオ分析を実施しました。引き続き、財務へのインパクトについてシナリオ分析を進めます。

リスク管理

サステナビリティ委員会は、プリマハムグループを取り巻く気候変動に係るリスクや機会について協議し、取締役会へ報告

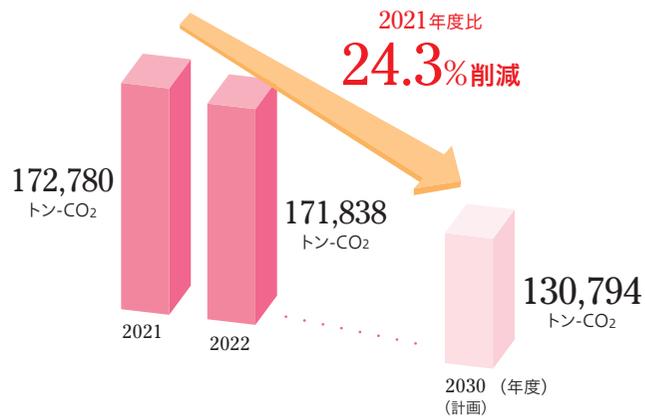
します。これを受けて、取締役会はリスク懸念事象について審議し、当社グループの環境課題への対応方針や実行計画などを決定していきます。また、リスク懸念事象は、当社グループの事業や業績などに影響を与える全社のリスクであるとの認識を深めます。なお、決定された事項については、サステナビリティ委員会および分科会で具体的なアクションに落とし込んでいきます。

指標と目標

プリマハムグループは、「温室効果ガス排出量の抑制」を重要課題(マテリアリティ)のひとつとして位置づけており、2022年度取締役会において「2030年度までに温室効果ガス排出量24.3%削減(2021年度比)※」という目標を立てました。この目標の達成に向けた活動に取り組むことで、気候変動問題に対応していきます。

- ※ 海外拠点・豚生体由来は除く
- ※ 「24.3%」は日本政府方針の2030年目標(2013年度比46%減)を年率換算し、2021年度比とした比率

温室効果ガス排出量の目標(海外拠点・豚生体由来は除く)



想定される気候関連のリスク・機会

リスク項目			おもなリスク	財務への影響	インパクト	発現時期
大分類	中分類	小分類				
移行リスク	政策・法規制	炭素税導入(増税)	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ・再エネ設備機器への投資負担が増加 ● (温室効果ガス排出量の低減が不十分な場合)税負担が増加 ● 原材料や容器・包材のコストが上昇 ● 飼料や動物用医薬品のコストが増加 	支出	中	短期
		温室効果ガスやプラスチックなど規制強化	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスチック資源循環法の施行によって製造コスト(容器包装材の購入コスト、リサイクルコスト)が増加 ● 改正省エネ法によって再生可能エネルギー調達などのコストが増加 ● 省エネ政策が強化され、製造設備の高効率機への更新が必要 	支出	小	短期
	技術	低炭素・脱炭素技術の代替、革新	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ設備導入拡大などによる設備投資が拡大 ● 技術革新の加速により、現存設備の資産価値が低下 ● 設備更新時期の早期化 	支出/資産	大	中期
	市場	消費者行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動対策やプラスチック対策などが不十分な場合、消費者の商品へのイメージ悪化/投資家や格付機関からの評価・資金調達力が低下/求職者や工場近隣の地域社会からの評価が低下/従業員のロイヤリティが低下 ● 日本のエシカル消費増大によって売上が減少 	収入	小	中期
		原材料コストの上昇	<ul style="list-style-type: none"> ● 飼料価格の高騰 ● 包装材、添加物などのコストが増加 	支出	大	短期
評判	特定業種への非難	<ul style="list-style-type: none"> ● 畜産業に対するイメージ・評価が悪化 ● プラスチック容器の使用によってイメージ・評価が悪化 	収入/支出	小	長期	
物理的リスク	急性リスク	気象災害(台風・集中豪雨、大量降雪、落雷)	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害によって道路などのインフラが損壊 ● 工場の倒壊、生産設備の被害によって操業が停止 ● 物流網の寸断、倉庫被害などによって輸送が停止 	支出/資産	小	短期
		感染症の蔓延	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員の新たな感染症罹患によって操業が停止 ● 家畜の新たな感染症流行によって原料調達が停滞 ● 加工食品の原材料が不足 	収入	大	短期
	慢性リスク	気温の上昇、降水・気象パターンの変化、海面上昇	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸近くの工場や事業所における水害が発生 ● 飼料作物の収穫量が減少するほか生育環境が変化し、売上が減少 ● 地下水を灌漑用水や工業用水に利用している地域では、地下水の塩水化によって取水が困難に ● 従業員の健康管理コストが増加 ● 猛暑が常態化することで屋外業務等の人材採用が困難に ● 原料調達コストが増加 ● 夏季の暑熱ストレスによって家畜や家禽の発育が悪化し、肉質が低下 	収入/支出	中	長期

機会項目			おもな機会	財務への影響	インパクト	発現時期
大分類	中分類	小分類				
機会	資源の効率性	より効率的な輸送手段の活用と生産・流通プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同配送、モーダルシフトが進展 ● 仕分け、箱詰めの自動化による効率化 ● 温室効果ガス排出量の低減に向けて、国内養豚を増大し、輸送コストが減少 ● 温室効果ガスが少ない生産方式への転換 	支出	中	短期
		リサイクルの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器包装材のリサイクルが増加し、包装材の調達コストが減少 	支出	小	中期
		水利用・消費の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 工場での水使用量削減による水使用コストの削減 ● 水資源の保全や有効利用に取り組む畜産農家との取引が増加(=サプライチェーンでの環境負荷低減に寄与) 	支出	小	短期
	エネルギー源	火力発電エネルギーから再生可能エネルギーへのシフト	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギーの使用増によってコストが低減 ● 再生可能エネルギーの使用増によって投資家や格付機関の評価が向上 	支出	大	中期
	製品・サービス	低炭素・脱炭素に貢献し得る商品・サービスの開発・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器包装の改善によって賞味期限が延長 ● 省パッケージ商品やリサイクル材・バイオマスインキなどを使用した商品を拡大 ● GAP認証野菜の取り扱いを拡大 ● 石油由来肥料の削減などによって家畜排泄物由来堆肥の需要が拡大 ● 家畜のメタン排出を低減する飼料の開発 ● 生産過程における温室効果ガス排出量が少ない「低炭素牛」の需要が拡大 ● 植物や昆虫など調達原料の代替化によって総合プロテイン企業へと転換 	収入	中	中期
レジリエンス(回復力)	調達リスクを軽減するための資源の代替・多様化	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達先の分散・多様化によってサプライチェーンが強靱化 	収入/支出	小	中期	

人的資本の強化に向けて

人材育成と働きがいの向上による 変革意識の醸成を

近年、企業には非財務資本を重視した経営が求められています。特に日本においては少子高齢化によって労働人口が減少しており、「人的資本」の重要性がますます増えています。

プリマハムグループにおいては、業績低迷期に新規採用を縮小していた影響で30～40代前半の従業員が少なくなっており、特に女性が少ないこと、今後、管理職を担う年齢層が少ないことが長年の課題となっています。

そこで中期経営計画(2023～2025年度) **P.14** の「1. ESGへの取り組みと持続可能な経営基盤の強化」のなかで「人材育成と働きがいの向上による変革意識の醸成」を掲げるとともに、重要課題(マテリアリティ)のカテゴリーに「働きがいのある職場環境をつくる」ことを明示しています。

現在、「多様な働き方の尊重、推進」「優秀な人材の雇用と育

成」「心身の健康に配慮した労働安全衛生」を重要課題(マテリアリティ)として取り組んでおり、各項目の目標・KPIを設定し、社内ですら定めたアクションプランをもとにさまざまな施策に取り組んでいます。

「管理職に占める女性比率の向上」を 実現するためにさまざまな施策を展開

そうしたなか、当社グループでは「2030年度までに管理職に占める女性比率10%(※対象はプリマハム(株)の社員)」を目標・KPIのひとつとして掲げています。

2022年度実績は3.4%と前年度から向上しましたが、2030年度の目標達成には届かないペースです。前述したとおり、当社の人員構成上、急速な比率向上は難しいものの、女性向け研修の充実や女性採用比率の向上、人事制度の再検討を踏まえ、比率向上に取り組んでいます。

Pick Up



初の女性海外常駐者として
いろんなことに挑戦してみたいです

生産本部付外向
PRIMAHAM FOODS (THAILAND) CO., LTD. **笠巻 さやか**

現在、タイのPRIMAHAM FOODS (THAILAND) に常駐し、品質管理や商品開発を担当しています。当社で初めての女性海外常駐者なので、日本の職場では驚きの声もありましたが、学生時代から海外に興味があり、いつか海外で仕事がしたいと考えていたのでうれしかったです。また、駐在にあたって英語力を向上するためアメリカの大学に4ヶ月も留学させていただき、感謝しています。タイの地で品質と収益の向上に貢献していきます！

